

2010 東アジア・バレーボール科学会議

2010 East Asian Conference on Volleyball Sciences

報告者：高根信吾（富士常葉大学）

日 時	： 2010年8月23・24日
会 場	： 国立東華大学（花蓮市：台湾）
プログラム	： 23日
	18:00 - 19:00 Welcome & Introductions
	24日
	9:30 - 10:00 Opening Ceremony
	10:00 - 11:00 Keynote Lecture
	11:00 - 12:00 Poster Session
	12:00 - 13:00 Buffet Lunch
	13:00 - 15:30 Oral Session
	15:30 - 16:30 Free Discussion
	18:00 - Banquet

日本参加者：

遠藤俊郎（大東文化大学）、河合学（静岡大学）、矢島忠明（早稲田大学）、明石正和（城西大学）、大浜三平（スリーブックス）、鈴木陽一（早稲田大学高等学院）、黒川貞生（明治学院大学）、吉田清司（専修大学）、松井泰二（東京工科大学）、横矢勇一（大東文化大学）、小林海（早稲田大学）、柳澤優樹（大東文化大学大学院）、童安佚（筑波大学大学院）、高根信吾（富士常葉大学）

主な台湾側の参加者：

張木山（慈濟大学）林如瀚、陳福土、楊昌斌（国立東華大学）、張恩崇（国立台湾師範大学）

遠藤会長を団長とする計14名で台湾を訪問した。台湾では、国立東華大学の体育科教員、慈濟大学や国立台湾師範大学のバレーボールを専門とする教員約10名が迎えてくれた。さらに、国立東華大学の社会人大学院生などを加え、総勢約70名を集めての科学会議開催となった。

以下、派遣団の行動を時系列に沿って報告する。

23日午前

【結団式】

成田空港にて結団式を行い、団長の遠藤会長から「学会設立当初より海外に向けたバレーボールに関する情報発信と研究会の開催を模索してきたが、今回、設立15周年記念を機に、かねてから縁のあった台湾への訪問・科学会議開催が実現した」という今回の訪台に至った経緯やその意義を伺った。また、派遣団の通訳を務める童さんの紹介があった。

23日午後

【移動&花蓮到着】

成田空港～桃園空港、松山空港～花蓮空港と計2回のフライトを経て、花蓮に到着した。

途中、桃園空港では旅行社の担当者が迎えてくれる予定であったが、その姿は見えず…。しかし、童さんの案内のおかげで我々は難なく松山空港行きのバスに乗ることが出来た。また、松山空港から搭乗した国内線の飛行機は、新幹線の1両程度の小さいプロペラ機。プロペラ機の機内サービスドリンクは台湾では定番の「砂糖入り緑茶」だった。

花蓮空港にて、国立東華大学の林如瀚先生や国立台湾師範大学の張恩崇先生などの歓迎を受けた。

24日午前

【事前打ち合わせ】

科学会議開催前に打ち合わせを行い、我々の訪台を記念した盾を張木山先生に贈呈した。

また、張先生が開発した跳躍力向上のためのトレーニング機器の説明を受けた。

その後、林如瀚先生の案内で、東華大学の立派な体育施設（体育館や卓球場、バドミントン場、体操場、トレーニングルーム、グラウンド、プールなど）の見学を行った。



張先生に記念盾を贈呈する遠藤会長

【Opening Ceremony】

まずは、張木山先生および林如瀚先生から我々派遣団に歓迎のお言葉を頂いた。

次に、遠藤会長から流暢な英語で、台湾での科学会議開催に対して感謝の意を伝え、今回の会議の成功と今後も継続的な開催を祈念するとの挨拶があった。

そして、林先生に記念盾を贈呈した。また、総勢約70名で記念撮影を行った。



林先生に記念盾を贈呈する遠藤会長



参加者全員による記念撮影

【Keynote Lecture】

スポーツ医学を専門とする楊昌斌先生による講演が行われた。テーマは「The Influence of Different Exercise Models Intervention on the Healing of Rats' Achilles Tendon」で、ラットを用いた運動様式の違いによるアキレス腱障害の回復について、筋組織の写真を提示しての熱心な講演をお聴きした。

なお、楊先生の研究論文のアブストラクトは41頁に掲載しております。



発表者の楊先生と通訳する童さん

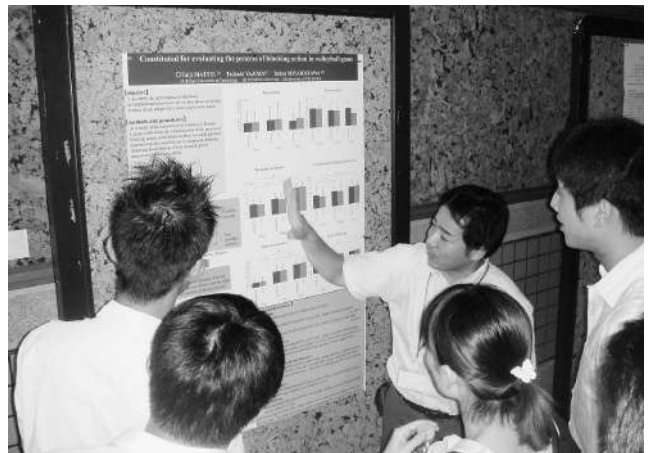
【Poster Session】

日本からの参加者による10題のポスター発表が行われた。基本的には英語での発表であったが、質疑応答は通訳の童さんを挟むことで活発かつスムーズに行われた。ポスターは英語に加え、日本語（漢字）でも書かれているものが好評であった（やはり台湾では漢字の方が伝わりやすかった…）。

また、東華大学のリクエストで、ポスターは3ヶ月ほどそのまま掲示されることになった。



ポスター発表風景



質疑応答風景（松井泰二氏）

24 日午後

【Oral Session】

東華大学の社会人大学院生の修士論文発表会を中心に口頭による研究発表（22題）が行われた。東華大学の社会人大学院は主に長期休暇を利用した3年制の大学院で、院生はほとんどが現職の先生方。台湾では9月から新学年が始まる制度のため、我々が訪問した8月下旬は、日本では3月下旬に相当する時期であり、修論発表会が開催された。最終学年の院生が発表をして、それを下級生が聴くため、多くの院生が参加していた。我々も台湾におけるスポーツ科学の研究内容を興味深く拝聴した。修士論文の分野は、スポーツ心理学2本、体育経営学3本、スポーツ政策1本、体育方法学9本（うち2本がバレーボール）、特殊教育学

1本, 体育科教育学1本, スポーツ人類学1本, 健康体力学3本, スポーツ栄養学1本と, 幅広い研究に取り組んでいた。

24日夕方

【Banquet】

日台の友好を深めるべく, 科学会議の参加者約70名が一同に集まり, 盛大な夕食会が催され, 台湾麦酒や紹興酒と共に台湾料理を美味しくいただいた。もてなされた台湾料理のほとんどは我々日本人の口に合う料理であったが, あの「甘すぎるお茶」だけは最後まで馴染めずじまい。そして, 「マンボウ鍋」は初めていただいた。帰国してから知ったのだが, 花蓮市はマンボウで有名。そういえば, 花蓮市内の道路脇や交差点などには数多くのマンボウのオブジェが…。

夕食会の締めでは, 今回の我々の台湾訪問が国際交流の確かな第一歩であることを確認し, 今後もこのような科学会議を定期的に行うよう両国が協力していくこと, その一環として, 日本バレーボール学会第16回大会の際に張木山先生が来日し, 講演して下さることを約束した。



挨拶する林先生

25日午前

【移動&帰国】

花蓮空港～松山空港の国内線が, 雷のため1時間近く遅延。楽しみにしていた台北市内観光は中止…。次の機会のお楽しみとなった。

25日夜

【解団式】

成田空港にて解団式を行い, 遠藤会長より「交流の継続性を担保するためにこれからが大変重要になってくると思いますので, 今後ともご協力のほどをよろしくお願い申し上げます」との挨拶があった。

